



四小だより

令和6年10月2日号 No.9

いちょう

山形市立第四小学校

校長 樋口 潤一

<児童数 189 名>

〒990-0055

山形市相生町4番37号

TEL 623-6019

FAX 633-9321

素敵な113周年創立記念式となりました！

—いつもいつも、ずっとずっと見守っていただき、ありがとうございます—

昨日（10月1日）は、本校の113周年創立記念日でした。奨学会の澤田斉会長と、同窓会の矢野秀弥会長、歴代の校長先生をはじめ、たくさんのご来賓の皆様からご臨席いただき、とても温かく、優しさに満ちあふれた創立記念式を行うことができました。児童代表として「四小がだいすきです！」とお話してくれた舟山花音さんの言葉と、全校生による美しい校歌にも、胸が熱くなる思いでした。

私は、四小のスタッフルーム（職員室）の廊下に展示している田中義夫さん（昭和23年・本校卒業）の絵にかかわって、以下のような式辞を述べました。私は、田中義夫さんがきっと、四小の子どもたちに、平和で健やかに育つことができる、そういう世の中を創ってほしいと願ったのだと思います。

今日は、私たちの学校、山形市立第四小学校の誕生日、創立記念日です。明治44年、1911年に学校が生まれて、今日でなんと113歳になります。

本日、ここに、奨学会会長 澤田斉様、同窓会会長 矢野秀弥様をはじめ、たくさんのご来賓の皆様をお迎えし、創立113周年記念式を行えることをうれしく思い、心より厚く御礼申し上げます。

本校の創立記念日にあたり、私はこの言葉を書きました。何と書いてあるか読めますか。そうですね、「銀杏」です。「いちょう」とも読みますね。「銀杏」はいちょうの種で、白くて果物の「あんず」のような形をしているので、銀のあんず、「ぎんなん」と呼ばれます。では、「いちょう」は、どうして「いちょう」という名前になったのでしょうか。私は、そのことを調べているうちに、「いちょう」が恐竜の生きていた時代、恐竜が好きな人はわかると思いますが、トリケラトプスやステゴザウルス、ティラノザウルスなどが生きていた1億5千万年以上前からたくさんの種類が生きていて、そのあと氷河期というとてもとても寒い時代に、たった1種類のいちょうを残して恐竜と一緒に絶滅してしまったことがわかりました。そのたった1種類のいちょうは、中国の山奥で生き延びて、今から500年ほど前に、中国から日本にも運ばれて、増えて育ったと言われています。では、生き残った中国で、この木は何と呼ばれてきたか。葉っぱの形が、鴨（カモ）という鳥の脚に似ているので「鴨の脚」、その頃の中国語で、「イーチャオ」と呼ばれていたそうです。気づきましたか。中国語の「イーチャオ」が、日本で「いちょう」と呼ばれるようになった。私は「なるほどなあ」と思いました。

「なるほどなあ」と思うと同時に、もう一つ、はっと気づいたことがあります。それがこの絵です。9月の全校朝会で、皆さんに田中義夫さんの絵、四小のグラウンドがさつまいも畑になっていた絵を紹介しましたね。

その田中義夫さんが、四小の100周年の時に、子どもたちにぜひ、という思いでもう一つプレゼントしてくださったのがこの絵なのです。

ここには、鴨の仲間である「オシドリ」という鳥が描かれています。「オシドリ」は、雄と雌がとても仲がいいと言われている、山形県の鳥「県鳥」にもなっています。とても美しい鳥ですよ。私が特にはっとしたのは、そのオシドリの脚です。皆さんにも見やすいように大きくしてみました。ここです。わかりますか。3本の指の間に水かきがあって、まさに「いちょう」の葉っぱみたいでしょう。そしてなんと、このオシドリの雄にしかないこの羽は、「いちょう羽」と呼ばれているのです。

田中さんはこのことをご存じで、四小の子どもたちに2枚の絵をプレゼントすることで、「グラウンドがさつまいも畑になる」ような戦争の時代を繰り返すことなく、「オシドリのように仲よく、平和にくらせる世の中をつかってほしい」という願いを、私たちに伝えてくださったのではないかと、私はそう考えています。

残念ながら、田中さんはもう天国にいらっしゃるので、本当の答えを教えてくださいことはできませんが、私たちの希望のしるし、母校のまもりである「いちょう」とともに、平和な世の中をつかっていく私たちを、ずっとずっと応援してくださっていると私は思います。皆さんもぜひ、田中さんの絵とともに、存蹟館にある先輩たちの作品を見ながら考えてみてください。

結びになりますが、本日ご臨席いただきましたご来賓の皆様、これからも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

スタッフルームの廊下に展示している田中義夫さんの
 絵「山形市第四国民学校」
 （昭和十九年・戦争中の時代に、四小のグラウンドが
 サツマイモ畑になっているときのことを思い出して
 描いてくださり、本校百周年の際に、田中さんが寄
 贈してくださった絵）



上の絵とともに、田中義夫さんが寄贈してくださった絵「おしどり」



おしどりの雄
 （拡大）

銀杏

私（樋口）が書いた「銀杏」

